

大会名称: **第2回東アジアバスケットボール選手権大会**  
**兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選**

開催場所: **中国・南京 南京オリンピックスポーツセンター体育館**

試合区分: **No. 109 男子 準決勝** コミッショナー: **HASHIMOTO NOBUO**

期 日: **2011(H23)年6月14日 (火)** 主審: **Boris SHULGA**

開始時間: **19:30** 副審: **Sheng-Tung CHU、Wing Hung LEE**

終了時間: **21:30**

<b>日本</b>	○ <b>72</b>	12 -1st- 15 12 -2nd- 23 26 -3rd- 10 22 -4th- 14 -OT1- -OT2- -OT3-	● <b>62</b>	<b>中国</b>
-----------	----------------	---	----------------	-----------

第2回東アジアバスケットボール選手権大会 兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選、準決勝。日本はグループA組1位の中国と対戦。序盤は中国の高さの前に、オフェンスリバウンドからのセカンドチャンスやファウルから失点し、24-38とリードされて前半終了。しかし、後半に入ると粘り強いディフェンスからチャンスをつかみ、徐々に点差を縮め、第3ピリオド終了間際に50-48と逆転。その後も中国の攻撃の手を封じるディフェンスで点差を広げる日本。終盤、中国は3Pシュート等で追いつけるも、落ち着いて時間を使った日本が72-62で勝利。今大会2大会連続の決勝進出を決めた。

第1ピリオド、序盤から激しいプレッシャーのディフェンスで相手のミスを誘い、さらにリバウンド争いでのファウルから、#10竹内(公)から#15竹内(譲)のコンビプレイで初得点をあげる日本。しかし、どちらもイージーミスやファウルが重なって得点が伸びず、12-15で第1ピリオド終了。

第2ピリオド序盤、#8柏木、#7石崎のシュートが決まるが、中国は#6の連続3Pシュートで16-25と抜け出す。日本はたびたび中国にオフェンスリバウンドを奪われ、セカンドチャンスの守りが相次いでファウルとなり、フリースローからの失点が増える。終盤もインサイドからの連続得点を許し、24-38と14点ビハインドで前半終了。

第3ピリオド、高い位置でプレッシャーをかけ中国の攻撃の芽を摘む好ディフェンスから#9川村、そして#12広瀬の3Pシュートが連続で決まり38-44、6点差に迫る。さらに#10竹内(公)がインサイドで勝負してバスケットカウントを決める。さらにリバウンドを奪い得点につなげて48-48とついに中国を捉える。終了間際に#7石崎のシュートが決まり、50-48と日本が試合をひっくり返し、最終ピリオドへ。

第4ピリオド、#7石崎のバスケットカウントからスタート。その後もディフェンスが効き、中国に攻めさせない。逆に日本は6連続得点をあげ、残り5分24秒、64-48と16点差をつける。しかし中国は3Pシュート、ダンクシュートで反撃し、残り2分切ったところで68-60、一桁点差まで詰め寄せられ、日本はタイムアウト。仕切り直した日本は落ち着いて時間を使い、結局72-62で逃げ切り、決勝進出を決めた。日本は対中国戦3連勝中。(2009年東アジア選手権大会 日本68-63中国、2009年東アジア競技大会 日本79-71中国 2010、2008~2007年は対戦なし、2006年アジア競技大会 日本68-94中国)

大会最終日となる明日、6月15日(水)19:30(日本時間20:30)より、初優勝をかけて決勝で前回覇者の韓国と対戦する。

担当者: ((財)日本バスケットボール協会)